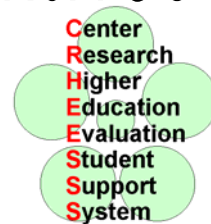


週刊センターニュース

No.150



第150号(2007年3月19日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第143回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 3月23日(金) 14時30分~16時(曜日時限が通常と異なっておりますので、ご注意ください)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階会議室

報告者: 堀内和雄氏(学生部長)

テーマ 「これからの学生支援について」

内容: 本年3月末に定年退職される堀内氏から、神戸大学や徳島大学の学務部長などのご経験を踏まえた、学生部を中心とした学生支援のあり方についてご提言いただく。その後、参加者間で大学の学生支援力をどうすれば高めることができるかについて意見交換を行う。なお、この共同学習会は、堀内氏を研究協力者の一人とする、研究課題名「大学評価指標における学生支援の位置づけに関する実証的研究」(科学研究費補助金基盤(c) 課題番号18611004、研究代表: 青野 透)の研究の一部をなすものである。

○●○ パネル討論会開催のご案内 ○●○

テーマ: 「いしかわシティカレッジにおける授業コンテンツ化と今後の方向」

主催: 金沢大学IT推進プログラム、共催: 大学コンソーシアム石川

日時: 2007年3月30日(金) 15時~16時30分

場所: いしかわシティカレッジ(金沢市広坂2丁目1番1号 石川県広坂庁舎1号館2階)

趣旨: 石川県の高等教育機関が、いしかわシティカレッジを母体として単位互換をはじめとする様々な教育面での連携を行ってきたことは周知の通りですが、大学コンソーシアム石川の発足を機にさらなる教育機関相互の連携、あるいは地域社会への貢献が求められています。いしかわシティカレッジの取組は、文部科学省による平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、そのプログラムの一環として、授業のコンテンツ化と受講生へのコンテンツ配信が進められました。

本パネル討論会では、教育機関相互の連携強化と地域社会への貢献の方策として、これまでに進められた授業コンテンツ化事業を振り返るとともに今後いかなる展開を目指すべきかについて議論したいと思います。大学コンソーシアムにおいて e-Learning や ICT (インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー) が果たしうる機能について、参加者の皆様より様々な角度からの意見を頂き、高等教育と情報技術との関わりについて考えて参ります。多数の御参加をお願いいたします。

パネリスト: 金子 劭榮(石川県立大学)、竹井 巖(北陸大学)、堀 有行(金沢医科大学)、
西山 宣昭(金沢大学)

【申込方法】資料を用意する関係がありますので、必要事項を明示の上、メール・電話・FAXなどで、下記あてにお申し込みください。必要事項: 「お名前」「御住所」「電話番号」「所属機関(教員の場合)」。 3月26日(月)必着をお願いいたします。

【申込先・問合せ先】

・大学コンソーシアム石川事務局

Tel : 076-223-1633、Fax : 076-223-1644

E-mail : info@ucon-i.jp

・金沢大学総合メディア基盤センター IT教育推進プログラム事務局

Tel : 076-264-5817、Fax : 076-264-5999

E-mail : it-jimu@el.kanazawa-u.ac.jp

○●○ 平成 18 年度「学習環境改善のための 1 年生アンケート」結果分析に基づく提言ーその 2 「高校教育との接続」○●○

教育企画会議学生生活部会が昨年 11 月に行った標記アンケート結果に基づき、本誌上で、学習環境の改善に向けた提言を試みる 2 回目は、それぞれの授業における高校での学習との接続に関するものです。

アンケート設問5では、「高校から大学への学習の接続について」と題して、「あなたは、高校で履修しなかった科目（あるいは科目内の分野）で、大学で学習する上で必要となった科目、あるいは、高校で履修した科目で、大学で高校の授業内容の補習をして欲しいと思った科目がありましたか。」と尋ねました。「はい」が157名、「いいえ」が262名、「未回答」89名となりました。約35%の1年生が、入学前までの知識では大学の授業を理解するうえで困難と感じる科目があったこととなります。

次に、設問6と7で、設問5で「はい」と答えた人を対象に、「科目名もしくは科目内の分野名などを具体的に記入してください。（例：「生物」、「数学の微分・積分」）」と尋ねました。設問6の回答で、「生物」19「物理」10、「地学」9、「世界史」5、「物理学（物理）Ⅱ」4、「数学の複素数」3などが目立つなど、従来から指摘されていた理系科目と、高校での未履修問題でも指摘された世界史を答える例が目立ちました。ただし、細かな分野名を回答する学生も多く、学習不足、理解不足と学生自ら認識している分野が多様であることも実感できます。なお、「○○の授業が、文系学部限定なのに、高校で文系では習わないこと（おそらく数ⅢCの分野）が基礎知識としてあることを前提にして授業がされていて、授業の内容が理解できなかった。」との回答があり、要改善事項と考えられます。

教育内容の改善のためには、教員が、受講生の授業前の知識についておおまかでも把握しておくことが必須です。とりわけ1年生については、配慮が求められます。当センターでは、教育内容・方法改善のためのFDの日常化として共同学習会を開催しており、第1回（平成16年3月22日）の本学教育学部附属高等学校教諭による「高等学校社会科における授業の工夫」、第142回（本年2月13日）の東京芝中学校・芝高等学校教諭による「高等学校から見た学生支援」など、高校教育との接続を意識したテーマにも取り組んできました。本誌でも紹介しましたように、『高等学校学習指導要領』『同解説』も当センター図書室に用意し、閲覧に供しています。

ちなみに、今回のアンケートでは「高校でどの範囲がカットされたか教授が知らないため、たびたび当然のこととして講義が流れていくことがあった。補習は要らないが接続をしっかりとしてほしい」との回答がありました。いわゆる 2006 年問題への対応不足といえます。

学生の声に応じて補習等、共通教育の各系が考えるべきこと、ICT 教育の推進等、大学が制度上工夫すべきこともあります。それと並行して、個々の教員が授業内容に関するミスマッチの未然防止に可能な限り努める、これが最も重要ではないでしょうか。

提言

1年生の授業担当の教員は、①シラバスの充実（第二シラバスを含む）により授業内容の情報について詳細な事前提供を行い、②授業開始後はミニツツペーパー等により随時、受講生の理解度を把握しながら、授業を進めるべきである。

（文責：教育支援システム研究部門 青野 透）